



# 北条のむかしばなし

このシリーズは郷土作家 井坂敦賢さんによる北条の歴史をたどるおはなしです。

八坂神社の自家・本元が京都であることはいうまでもない。この辺りでもっとも古い八坂神社は玉取のノ天八坂神社である。たしかな来歴は知らないが、筑波大学構内の一角を含めてかなりの広い範囲に、天王台の小字名が残る。これは一ノ矢の祇園祭りにおいて神様がお出ましになるお旅所（たびじよ）が設けられたなごりである。地名の残存は古さの一証であろう。

北条八坂神社の祇園祭りは『北条町に関する旧記類』におさめられた明治時代の神社調査要項によれば、江戸時代は旧暦の六月八日に行われていたらしい。明治時代は旧暦の六月十五日であった。それがいつのころから変わって、わたしの子供時代の戦後は新暦の七月十五日であった（当時は祇園の時は学校が休みになった。今は学校が休みの七月下旬の土・日曜が祭日である）。



2023年の祇園祭りの様子

興は内町・中町（横町は中町に属す）新町をくまなく巡行する。これは神様が北条全町をめぐって、悪霊（あくりよ）を追い払い、町民の安全を守るのである。そして送り祇園の日には、神輿は御飯屋を出て神社にもどり、神輿は神社内に元のように納められというのが、古来からのなわらわしであった。当番町は毎年三町で交替し、当番に当たった町は、神輿をかつぐ役割をになうと共に、当番町内にお飯屋を設ける役目もある。先に引いた神社要項によれば、当番町においては、山車（だし）あるいは手踊（ておどり）など五台ないし三台を出し、神輿の後に続き、市街を歩き巡る」とある。

山車は今も盛んであるが、手踊もあつたとは、明治の頃のにぎわいが察せれる。

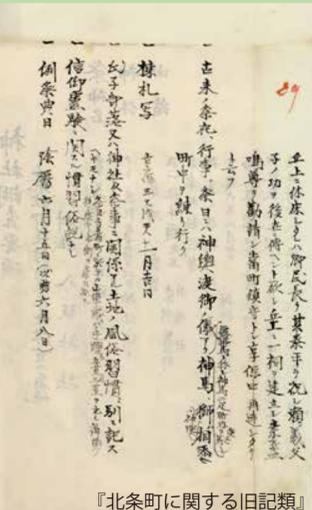
その要項にはまた次のように記されている。

祭日には、神輿渡御（とぎよ、神様が町内をお渡りなされること）の儀あり。露払馬（つゆはらいうま）二匹町内を疾駆（しつ）し、獅子（しし）は神輿に相添え、町中を練り歩く。露払馬が

登場していたことは掲出した写真で明らかである。この馬が露払いといわれるのは、神様の巡行に先立って道々を払い清めるという意味である。相撲（すも）



神馬一馬を引くのは大関登・茂兄弟。戦前の撮影か。大関満里子氏提供



『北条町に関する旧記類』

もっとも七月十五日といっても、これは本祭のことである。実のところは三日間にわたり行われた。初日を宵祇園（よいぎおん）といい、中の日が本祇園、おしまいを送り祇園といった。宵祇園には、神様が神輿（みこし）に移され神社からお出ましになり、お飯屋（おかりや、先の旅所と同じ意味）に入られる。本祇園の日には、神

NPO法人「矢中の杜」の守り人 福田恵美子

## 「矢中の杜は宝の庭」

今回は矢中の杜を使ってやっていることの一つをご紹介します。私は矢中の杜の保存活用活動に参加していますが、普段はフラワーアレンジメント・プロデューサーとして、お花のアレンジメントを教えたり作品を提供したりしています。そして矢中の杜を使用して作品展やレッスンをしたりもしています。



そもそも「矢中の杜」を知ったのは知人の話から。北条にそんなところが？とネットをみてみたら、なんだかすごい。そして実際に見学に来たその日、「ここへ絶対に花を飾ってみたい！」と一目惚れし、邸宅を借りて二〇一八年に、作品の展示を実現しました。

展示をするからにはいいものを、と邸宅の中を巡り、「ここにはこんな作品を」とイメージをふくらませ、実際に寸法を図り、企画して、と準備を進めました。矢中の杜の空間は、力を抜いた作品も、必死に取り組む作品も、どちら

もできる空間で、大変だったけれど楽しかった！展示を見た方に、「作品があるだけで邸宅や庭が見違えるほどきれい」「作品を見に来たのを忘れるほど、邸宅と一体だった」という感想をいただいた



き、最高にうれしかったです。

今は、矢中の杜で定期的にフラワーアレンジメントレッスンも開催しています。邸宅の落ち着いた和の空間でリラックスしたレッスンができるので、「大人の休日倶楽部」とでも呼びたくなるような、いい時間になっています。

私には矢中の杜は宝の庭に見えるんです。ヤツアや菊ハラン、シャリンバイ、モミジ、南天、椿などなど。レッスンでは用意した花材を使うけれど、余裕があれば庭で思い思いの花を探してアレンジしていただくことも。「矢中の杜だからできること」を取り入れていきます。今後は奥庭で花摘みをしてそれをアレンジ作品にする、といった即興性のあるレッスンにも挑戦してみたいと思っています。

何ヶ所かで開催しているレッスンの中で、矢中の杜でしかできないことをみんなで楽しみたい。そして矢中の杜を活用することで、生き生きとしたい邸宅を保存していきたいと思っています。

※矢中の杜では、展示やワークショップ開催、撮影などなど、邸宅でご自身の企画をやってみたくらいの方に、有料でお貸しします。料金は邸宅の維持保存に使わせていただきます。昭和の雰囲気色濃く残す地元の重要文化財を、ぜひご活用ください。事務局にお問い合わせください。詳しいご案内・ご相談をいたします。矢中の杜でいつもと違う時間を過ごしてみたいかがですか！

問い合わせ先 「矢中の杜」の守り人事務局  
090-6303-4531/yanaka.no.mori@gmail.com



【邸宅公開】  
毎週土曜日 11時～16時  
お一人様 500円  
(中学生以下無料)



の横綱の土俵入りでも、横綱を先導するのが露払いの役目である。しかし、神馬はもともとはこれが祭りの主役であったと思われる。神輿がまだなかった古い時代には、馬の背に御幣（ごへい）を立てて、それに神様が宿り、町内を巡行したのであろう。



復活した三角神輿

「ここに「獅子は神輿に相添え」とあるのが問題である。この神輿とは、今ふつうにみかける神輿とは別物ではないだろうか。今はないが、昔は「三角神輿」というのがあった。竹で作った三角形の屋根型のものを紺色の布でおおった、

同じ祇園祭でも、時代時代によって、あまたの変遷を重ねてきたのであった。祇園祭には祭りの組というものがあ



2023年の祇園祭りの様子

巾一間（一・八メートル）、長さ二間、高さ一間ほどの異様な神輿である。地面につく竹の先端に、土囊を縄でグルグル巻きにしぱりつけ、かなり重いものであった。この三角神輿の先に獅子がつながれていたのである。つまり「獅子は神輿に相添え」とあるのは、この三角神輿をさすと考えられる。したがって、今見られるような四角形の、屋根の上に鳳凰（ほうおう）を置き、四面を金具で飾りたてる神輿は、明治以降になって導入されたと思われる。三角神輿は戦後しばらくの間は続いてきたが、いつ頃からか中止になった。それが復活したのは2000年代にはいつからである。



イセブ印刷の前で。昭和初年撮影か。手に持つ提灯に「第二十支部」とあるが、矢中の杜所蔵のものか不明。

最後に山車のお囃子（はやし）に触れておくと、北条のは田中から伝えられ、田中は松原（筑西市）に学んだといわれる。一方、小田の祇園囃子は阿波（あなば、稲敷市）の大神社（さか）囃子系である。お囃子にもいろいろな流れがある。

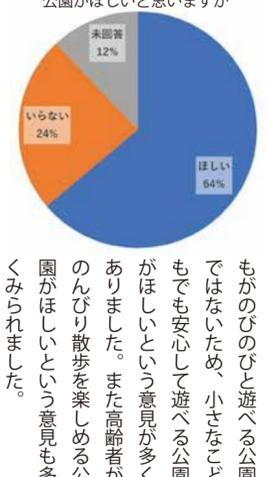
## 北条アンケートの結果報告 第二回

北条街づくり振興会青年部会 矢島祐介

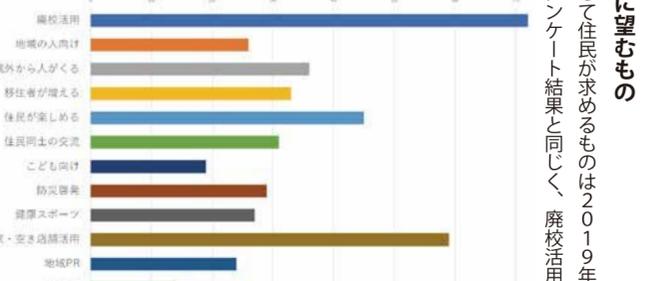
2023年に実施したアンケート結果報告の第二回になります。

### 公園のニーズについて

「北条に公園がほしいと思いますか？」という問いには64%の方がほしい、24%の方がいらなという結果となりました。若い子育て世代でほしいという意見が多くなっていました。



公園がほしいと思いますか  
 市民がまちづくりに望むもの  
 まちづくりの事業として市民が求めるものは2019年度に実施した第一回アンケート結果と同じく、廃校活用が一番多く、空き家・空き店舗活用、住民が楽しめる、地域外から人がくる、移住者が増える、の順番でした。空き家に関しては筑波山ゲートパーク体験イベントで空き家相談会を実施したところ移住したい希望の方が多く相談に来られたことから、北条周辺への移住ニーズは相変わらず高いことがわかりました。



### 伝統行事について

現在も続けられている伝統行事についての質問では、

多気太郎万灯会、十九夜講、二十三夜講、鹿島講、恵比寿講、御六神様（おもんじさま）、三峯講、秋葉講、犬供養といった行事が地域によっては引き続き行われているようですが、ほとんどの地域ではこれらの行事もやめられました。地域が多いようです。

#### ●月待の講（十九夜講、二十三夜講、庚申講）

江戸時代には地域住民が十九夜講では女性が、二十三夜講では若者が、庚申講では男性が集まり夜中まで飲み食いおしゃべりをして楽しむ行事でしたが、現代では旅行へ行ったり、お食事会をしたりという形になっているようです。

●火伏せの神様の信仰（愛宕様、秋葉講、三峯講）  
 内町では愛宕様、仲町では秋葉講、新町では三峯講としてそれぞれの神社に参拝しお札をいただいているそうです。

●恵比寿講 商売繁昌を祈願して恵比寿さまの掛け軸をかけ、尾頭付きの鯛とけんちん汁をお供えする。

●多気太郎万灯会 多気太郎義幹の命日に、お墓で供養を行う。

●犬供養 安産を祈願して「さくまた（Y字の形をした木）」を地面にさし供える。

●御六神様（おもんじさま） 北条新田で行われている農業の神様に五穀豊穡を祈る行事で、筑波山神社でご祈禱していただきお札をいただき、皆で宴会を行う。筑波山信仰の一つ。



供えられた犬供養のさくまた

その他、節分の家の出入り口で豆を撒いた後、氏神様へ豆を撒き、八坂神社へ行きぐりりと一周回って豆を撒くことや、鬼は外、福は内の後に「福でもってふととべる」の掛け声をかけることや、氏神様を毎年藁と竹で作りかえるわら宝殿で行っているといった回答もありました。